

「オレは最強だ」

先日の新聞に、大手衣料メーカーの全面広告が載っていた。「11歳の国枝慎吾くんへ」と題された記事には、国枝選手の11歳の写真と、ウインブルドンで優秀した時の写真があり、11歳の国枝選手に向けた手紙が載っている。

「9歳の時にせき髄の病気で両足に障がいが残し、母の勧めで車いすに出会ったばかりのあなたに思い描くことができるでしょうか。自分が世界を舞台に戦い、車いす男子史上初の生涯ゴールデン Slam を達成する姿を。大人になっても負けず嫌いのあなたは、再発する怪我や襲いかかる重圧を乗り越え、数えきれないほどの『世界一』を勝ち取ります。あなたが活躍する度に、車いすテニスのファンは増え、障がい者スポーツがメジャーになっていきます。障がいのある方もない方も垣根なく活躍できる社会へと、世界は着実に向かっています。……」

車いすテニス男子でレジェンドといわれる国枝選手。四大大会ではシングルスとダブルスで通算50回の優勝、パラリンピックでも4個の金メダルに輝き、1月に世界ランキング1位のまま現役を引退した。その引退会見に合わせて、スポンサーの衣料メーカーが載せた広告だ。手紙にもあるように国枝選手の活躍により、障がい者スポーツを広めた功績はとても大きいように思う。

国枝選手のラケットには「オレは最強だ」という言葉が貼られている。13年前、頂点との差をうめるには、技術だけでなくメンタルの強化が欠かせないと感じていた国枝選手は、メンタルコーチに「僕のテニスを見てナンバーワンになれる可能性がありますか？」と尋ねた。すると、逆に「あなたはもう何を考えているの？」と質問を受ける。国枝選手は「ナンバーワンになりたい」と答えると、「『なりたい』じゃなくて、『自分がナンバーワンだ』と断言するトレーニングから始めましょう」とアドバイスされた。「オレは最強だ」の言葉は、ここから生まれそうだ。

引退会見の中で、記者からの「苦しい局面をどうやって乗り越えたか」という質問に、国枝選手は「弱気になる部分はテニスをやっていたらあるし、『オレは最強だ』という風に自分自身断言する、そういったことで弱気の虫を外に飛ばせたと思う。だから最後までやりきれたかなと思う」と語った。

2月14日 校長 鈴木 幸雄

◆問題 2つの整数があり、その最大公約数が6、最小公倍数が420でした。このような2数の組はいくつありますか、差が最も小さい2つの整数を求めなさい。